

コラム

イスラム国とタリバーンの類似性について

地球環境ユニット 担任
常務理事 黒木昭弘

ここ半年ほど ISIS として、最近ではイスラム国として大いに注目されている過激な組織があるが、アラブ問題の素人である私から見るとどうしても 1990 年代から 2000 年代初頭に起こったタリバーンの現象を思い出してしまう。アラブの専門家からするとこの二つはたぶん全く異なった現象なのではと思うが、ある一面から見ると極めてよく似た現象に思えます。

(宗教的不寛容) タリバーンは神学生が主体となって創設され、民族的慣習を持ちつつもイスラムの教義に真摯で、軍閥の横暴に悩まされていた民衆の支持が初期には得られたが、厳格なイスラム戒律を強制する、音楽の禁止、女子の教育・労働の禁止などから徐々に支持が落ちていきました。イスラム国も宗教的厳密性を強く持っているようで、特に他の宗教には不寛容で改宗か死かを選択させたりまでしているようです。

(歴史的建造物の破壊) タリバーンによるバーミアンの仏像破壊は有名ですが、イスラム国も敵であるシーア派のモスクを破壊するなど歴史的価値を無視した行為を行っています。

(極めて短期での勢力拡大) 神学生を中心に組織されたタリバーンでしたが結成後ほんの数年で首都カブールを始めアフガニスタンの大部分を制圧しました。イスラム国もシリアでは目立たなかったものの、イラクに勢力を拡大する際には一挙にシリア国境から北部地域を制圧し、一時は首都バグダードに迫るまでの勢いでした。短期間に大きな成功を収めたのはよく似ています。

(虐殺行為) 両者の特徴と言えるでしょう。タリバーンは 1998 年に要衝の占領後ハザラ人を数千人規模で虐殺しています。イスラム国も北部で捕虜にしたシーア派のイラク政府軍兵士を同じような規模で大虐殺したと伝えられています。

(空からの攻撃への対処能力の欠如) 軍事的な類似点は双方とも敵の空からの攻撃に対して妨害する能力に欠けている事が特徴です。別に制空権を取る能力が無くても空からの攻撃に一定の妨害能力があれば様相はだいぶ変わりますが、両者ともほぼ何もない状況です。

(米軍の空爆開始僅か 2 ヶ月で崩壊したタリバーン) 地上戦では唯一の敵となった北部連合を圧迫していたタリバーンですが、米軍の空爆が始まると北部連合軍に対する組織的軍事作戦が全く出来なくなりあっさり崩壊して、首都カブールを始めとするすべての都市から放逐されました。

(イスラム国の軍事的状況) 似たような規模の地上軍同士だと一方が空からの攻撃力があり、他方がそれに対抗する手段がないと地上戦も一方的になります。イスラム国もシリアではシリア空軍の攻撃で目立った成果を上げていませんが、航空戦力の極めて乏しかったイラクでは大きな奇襲攻撃の成果を上げ、組織的軍事活動を実施できました。がイラクが緊急にロシアとイランから Su-25 攻撃機を導入し、同機が空爆を始めるとこの方面での組織的軍事活動は一気に低下しました。何を思ったかイスラム国は空軍力を持たないクルドに対して攻勢をかけましたが、これも一次的な成功を収めただけで米空軍がクルド人への人道支援という立場で空爆を開始するとイスラム国の攻勢の勢いもそがれたようです。

(結論) 最初に述べたようにタリバーンとイスラム国には多くの似たような点がありますが、当然時代も背景も違うので、これだけでイスラム国がタリバーンと似たような運命をたどるとは言い切れないと思います。ただ相当厳しい状況に追い込まれていることは確かなようです。

(この比較分析は著者の個人的見解であり、著者の所属する日本エネルギー経済研究所の見解とは異なるものです)

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp